

講義コード	1480330000
講義名称	労働法B　＜秋＞
科目英文名	Labor Law B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	0LAW3460
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
楠本　敏之

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① 『実務経験のある教員による授業（元弁護士が、専門分野における実務経験で涵養された知見をも活用して講義する）』
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--

講義・演習概要	近年、テレビ・新聞などの報道で、しばしば「非正規雇用問題」「長時間労働」など多くの労働問題が議論され、その解決の必要性が叫ばれています。実際、日本の労働現場では、非正規雇用、長時間労働をはじめとして、セクハラ、パワハラ、ワーク・ライフ・バランス、時間外労働規制、過労死・過労自殺など多くの解決すべき問題があります。本講義では、そのような問題に対処するための手段としての現在の労働法についてわかりやすく解説するとともに、現在においても未解決の様々な問題を解決するために何を改善するべきなのかを考えることができるようにします。
学習（到達）目標	労働法 A で労働契約に関する諸規定や賃金に関する規制などを取り扱いますが、その継続として、労働時間規制をはじめとする労働者保護のための諸規制や労使関係法などの法制度について解説していきます。労働法の全体像を体系的に示した上で、労働法の基本知識をしっかりと習得しながら、最終的には、何らかの労働問題に直面した時に、正しく判断し適切に処理することのできる法的能力を身に着けることができるようにすることが目標です。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス～講義の進め方・方針など（労働法 A の取扱事項のまとめを含む）
第2回	労働時間規制①～基本的枠組みなど
第3回	労働時間規制②～労働時間柔軟化などの特則など
第4回	休暇・休業など
第5回	労働安全衛生・労災補償など
第6回	年少者・女性の保護規定など
第7回	労使関係法総論など
第8回	団結権など
第9回	団体交渉権など
第10回	労働協約締結権など
第11回	団体行動権など
第12回	不当労働行為救済制度など
第13回	労働紛争解決システム
第14回	労働市場法
第15回	まとめと今後の労働法の課題について

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法 （コメント）	備考 学年末の2回のレポートのみで評価します（各50％）。ただ、毎回の授業に関し定められた形式でM-Portを通じて課題を提出することを義務とし、その提出が11回以上の者のみが成績評価の対象となります。
-------------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	森戸英幸	ブレップ労働法（第7版）	大学オンライン販売	9784335313332	弘文堂	

参考文献	村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣）
事前および事後学習の指示	労働法は、法律だけでなく、実際に生じた問題を取り扱った判例がとりわけ重要な法分野です。事前に指示されたテキストの該当部分や配布された判例などの資料については、読んだ上で講義に臨み、事後には、知識・理解の定着のために、講義の際に配布されたレジュメを再確認し、丁寧に復習するようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	労働者、使用者、労働時間、賃金、ワーク・ライフ・バランス
備考(管理者用)	（旧：労働法）02～19生読替

講義コード	14D2420000
講義名称	統計学総論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Social Statistics Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1560
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
吉田　茂一

授業形態	講義	実務経験のある教員による授業① シンクタンク[アジア太平洋研究所]勤務における調査分析の実務経験も反映させた講義内容
------	----	---

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。	
	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	記述統計(＝統計データの整理と記述の方法)について概説し、推測統計(＝確率の考えをもとに、標本から母集団の特性を推論する方法)の基礎的な考え方について、講義を進めていく。 「統計学総論Ⅰ」と「統計学総論Ⅱ」では、大きな流れはどちらも共通しており、Ⅰで十分に扱えないトピックスをⅡで扱う。
学習（到達）目標	記述統計の知識と推測統計の考え方、これらについてより深く理解することを目標とする。このためには、各自の自習時間にパソコンも活用して教科書の例題などの課題にも挑戦していただく。「統計(学)的な物の考え方」は、今後社会に出てからもあらゆる場面できっと役に立つものであろう。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス （各回の順序は理解度に応じて入れ替えることがある）
第2回	記述統計と推測統計
第3回	算術平均（相加平均）と幾何平均（相乗平均）
第4回	単純平均と加重平均（ウェイト付き平均）
第5回	G P A （グレード ポイント アベレージ）
第6回	ちらばりの指標（分散・標準偏差、レンジ等）
第7回	ヒストグラムにおける階級の設定
第8回	確率
第9回	ベイズの定理
第10回	確率変数と確率分布
第11回	密度関数、一様分布と正規分布
第12回	点推定と区間推定、推定と検定
第13回	比率の区間推定
第14回	回帰分析
第15回	試験およびまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	100%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	①授業内で2.3回程度、Excelを用いて実際に計算を行えるかを確認するレポートを課す。 ②Excelを用いたレポート課題を2回課す。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	金子治平・上藤一郎 編	よくわかる統計学－I 基礎編－(第2版)	学生独自購入	978-4-623-06111-2	ミネルヴァ書房	(¥2600+税)

参考文献	郡山彬+和泉澤正隆=著『統計・確率のしくみ(入門ビジュアルサイエンス)』日本実業出版社(税込¥1365) ISBN:978-4534026620
事前および事後学習の指示	教科書の練習問題等での予習・復習を中心に、空き時間等を利用して積極的に課題に取り組むことが求められる。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：統計学総論) 02～10E・CBCC生読替

講義コード	1560230000
講義名称	国際政治史B　＜秋＞
科目英文名	History of International Politics B
開講責任部署	法学部　法律学科
代表ナンバリングコード	POLS2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
塚田　鉄也

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	国際政治は、国内政治とは少し異なった、独特の仕組みを有しています。本講義では、第一次世界大戦以降の現代国際政治史上の主要な出来事を学びながら、近代に形成された国際政治の仕組みがどのように持続・変化してきたかを考察します。
学習（到達）目標	①現代国際政治史上の主要な出来事について理解し、説明できる ②国際政治の仕組みがどのように持続・変化してきたかを理解し、説明できる

講義・演習計画

回	内 容
第1回	現代国際政治史を学ぶ意義
第2回	第一次世界大戦までの国際政治
第3回	パリ講和会議
第4回	1920年代の国際関係
第5回	1930年代の国際関係
第6回	第二次世界大戦
第7回	戦後秩序の模索
第8回	冷戦時代①：起源
第9回	冷戦時代②：展開
第10回	冷戦時代③：終結
第11回	アメリカと戦後日本
第12回	ヨーロッパ統合の展開
第13回	脱植民地化の展開
第14回	冷戦後の国際関係
第15回	まとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%

その他	0%
-----	----

成績評価の方法（コメント）	2週に1度、計7回実施する確認テスト（WebClassの「テスト」を利用）の平均点により評価する。なお、盗用等の不正行為が確認された場合は、その段階で不合格とする。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	小川浩之・板橋拓己・青野利彦	国際政治史－主権国家体系のあゆみ（新版）	学生独自購入	9784641151260	有斐閣	

参考文献	佐々木雄太『国際政治史－世界戦争の時代から21世紀へ』（名古屋大学出版会、2011年）
事前および事後学習の指示	テキストの指示された部分を事前に読んでおいてください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：国際政治史）02～19E・SS・SW・B・L・J生読替

講義コード	1781340000
講義名称	言語学概論B　＜秋＞
科目英文名	Introduction to Linguistics B
開講責任部署	国際教養学部　英語・国際文化学科
代表ナンバリングコード	LING2420
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
角出　凱紀

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)
---------------	--	----------------------

講義・演習概要	言語学は、我々人間が普段何気なく使っている言語に潜む規則性や特徴を探究する学問です。この講義は、日本語や英語の具体事例を通して、意味や使用にまつわる言語学の主要概念を身につけることを目指しています。また、日本語教育能力検定試験の問題を実際に手を動かして解いてみることで、知識の定着を図ります。
学習（到達）目標	1. 言語学における主要概念を正しく身につける。 2. 実際に自分で言語現象を分析できるようになる。 3. 言語に潜む何気ない不思議に気づく感性を育む。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	授業概要・導入
第2回	意味論 (1)：ことばの意味とは
第3回	意味論 (2)：意味関係
第4回	意味論 (3)：メタファー・メトニミー・シネクドキー
第5回	意味論 (4)：概念メタファー
第6回	意味論 (5)：アスペクト
第7回	意味論 (6)：主題役割
第8回	小テストと解説
第9回	語用論 (1)：直示
第10回	語用論 (2)：協調の原理
第11回	語用論 (3)：いろいろな含意
第12回	歴史言語学：言語変化
第13回	社会言語学：言語変種
第14回	言語類型論：世界の言語から見た日本語
第15回	小テストと解説

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	60%
----	-----

レポート	
その他	40%

成績評価の方法（コメント）	成績評価は、2回の小テスト（各30%）と課題（40%）で行います。
---------------	-----------------------------------

参考文献	風間喜代三・上野善道・松村一登・町田健. 1993. 『言語学』第2版. 東京: 東京大学出版. 黒田龍之介. 2004. 『はじめての言語学』東京: 講談社. 斎藤純男. 2010. 『言語学入門』東京: 三省堂. 佐久間淳一・加藤重広・町田健. 2004. 『言語学入門』東京: 研究社. 姫野伴子・小野和子・柳沢絵美. 2015. 『日本語教育学入門』東京: 研究社. ※授業内でも適宜紹介します。
事前および事後学習の指示	各回の授業後には必ず復習すること。授業内容の十分な理解には、各自の努力が不可欠です。特に、授業で学んだ概念や方法を用いてことばのデータを自分自身で分析できるかどうか、必ず確認してください。復習によって毎回の授業内容の理解を確かなものにしておくことが、次回の授業の事前学習となります。また、授業で取り上げた現象が日常の言語使用の中でどのように表れているか、日ごろから観察するようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間　事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：言語学概論) 02～17生読替

講義コード	1A10480000
講義名称	世界の市民-教育を考える　＜秋＞
科目英文名	World Citizen-Consideration on Education
開講責任部署	共通教育機構
代表ナンバリングコード	WDCZ1000
単位数	2.0
時間割	秋学期: 水曜日 2 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
伊藤　潔志

授業形態	講義	アクティブラーニング
------	----	------------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。 コメントシート	小レポート/小テスト
---------------	---	------------

講義・演習概要	2017年から2019年にかけて学習指導要領が改訂され、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領も2017年に改訂されました。新しい教育課程は2018年度から順次実施されていますが、少子化問題や子育て支援といった子どもをめぐる問題は常に日本の重要課題の一つでした。この講義では、教育に関わる原理的なテーマを考察し、それを踏まえ現実の教育において「教育とは何か？」を考え、あるべき未来の教育を展望していきます。
学習（到達）目標	① 教育の思想について理解する。 ② 教育の歴史について理解する。 ③ 教育の制度について理解する。 ④ 教育の現状と課題を理解し、教育の未来について考えることができる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	オリエンテーション
第2回	教育の意義
第3回	教育の目的
第4回	教育の思想①
第5回	教育の思想②
第6回	教育の歴史①
第7回	教育の歴史②
第8回	教育の制度
第9回	子どもと家庭①
第10回	子どもと家庭②
第11回	学校の責任①
第12回	学校の責任②
第13回	教師の役割①
第14回	教師の役割②
第15回	教育の課題、まとめ（教育の未来を考える）

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	0%
レポート	30%
その他	70%

成績評価の方法（コメント）	・評価は「レポート」（30％）と「授業課題」（70％）を基に総合的に判断する。 ・提出物はすべてM-Portを通して提出する。 ・2回のレポート提出と10回以上の出席を単位認定の基本条件とする。
---------------	---

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	伊藤潔志編著	哲学的な考えをいかす 新・教育原理	大学オンライン 販売	9784909378712	教育情報出版	

参考文献	・伊藤潔志編著『哲学的な考えをいかす 新・保育原理』教育情報出版、2024年。 ・文部科学省編『幼稚園教育要領解説』フレーベル観、2018年。
事前および事後学習の指示	・事前学習：教科書を読んでおくこと。 ・事後学習：授業ノートを確認しておくこと。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	(旧：世界市民-教育を考える) 14～19生読替